



扇小の明るい未来を信じて

学校長 村越 新

本日は、入間市立扇小学校開校50周年記念式典を挙げていただきました。

扇小学校は、昭和50年（1975年）に開校しました。児童数の増加による、豊岡小学校から分離する形で生まれた学校です。

開校した昭和50年は、失業者が急増し企業の倒産が相次ぐ中、反比例するかのよう学習塾が乱立するような時代でした。「サザエさん」のテレビ放送が始まったのもこの年です。

昭和46年に現代化された教育内容は、一部で「詰め込み教育」と言われていました。昭和52年からは「ゆとり教育」と呼ばれた学習内容にシフトされます。

そんな時代に生まれた扇小学校は、あっという間に児童数千人を超える大規模校になります。開校から5年間で児童数が倍増しました。

これまでに約八千人の子供が扇小学校で学んで来ました。市内体育祭、わんぱく相撲、学校研究、書き初め展や美術展などなど、校内には扇っ子の輝かしい活動の証が今でも残っています。その時代、その時代で、扇っ子は力強く生きてきたのだと想像できます。その反面、尊い命を失ったことで悲しみに暮れることもありました。命の大切さを本気で考えることは、扇小に刻まれた大事な命題です。

本校には、50年間歌われ続けてきた最高の校歌があります。子供たちも教職員もこの歌が大好きです。それは扇小の良さを明確に示しているからです。時代が変わっても変わらない、目指す子供の姿を示してくれているからです。誰も予測できないような未来が待ち受けていますが、この校歌に込められた思いは、明るい社会をつくってくれる唯一無二のメッセージです。

（一番） 張り切って 楽しく 勉強しよう

→ 主体的に、明るく前向きに生きていく

（二番） がんばって 負けずに 勉強しよう

→ 目標に向かって、粘り強く生きていく

（三番） 肩くんで 仲良く 勉強しよう

→ 他者と協働し、共に生きていく

大好きな 大好きな この学校で

→ 居場所はある、居場所をつくる

大好きな大好きなこの学校で、これからもたくさんの子が力強く生きていきますように、これからも皆様のご支援をよろしくお願い致します。

式 辞

本日は、入間市長、杉島理一郎様、入間市教育長・中田一平様、埼玉県議会議員松本義明様、泉津井京子様をはじめとした多くのご来賓の方々にご臨席をいただきました。入間市立扇小学校五十周年記念式典を行えることに、まずもって、心よりの感謝を申し上げます。

ご来賓の中には、扇小学校の節目、節目で、学校のために汗を流して下さった方、学校長として、扇小の学校教育を発展させていただいた方もいらっしゃいます。ご来賓の顔を拝見させていただきだけで、この扇小学校の歴史を感じます。

八千人を越える児童、千人を越える学校教職員が、ここ扇小学校で過ごし、学校の発展と共に成長させてもらいました。地域の皆様の協力や、入間市行政の支えがあって、本日を迎えられたことを、扇小学校の児童の皆さんも忘れないで下さい。

扇小学校が誕生してから50年。時代は変わりました。勉強の仕方や勉強道具、勉強する内容、勉強する意味まで変わってきました。しかしずっと、変わらないものもあります。それは、この扇小学校には「張り切って楽しく勉強する子がいる」ということです。

30年後、50年後、どんな時代になるか、小学生がどんな勉強をしているのか、予想は困難です。ただ私は、信じます。これからもずっと、扇小学校の子どもは「張り切って楽しく勉強している」と。

「張り切って楽しく勉強する人間」こそが、最も必要とされる。そんな時代がすでにすぐそこまで来ています。

多くの方々に支えられここまで来た扇小学校の歩みは止まることはありません。さらに力強く前進していきます。本校の発展が、未来の入間市、日本を切り拓くことにつながっていく、私たちはそう信じています。

最後になりますが、本校の明るく輝かしい未来と、扇小学校に関わって下さった全ての方々のご健勝を祈念しまして、式辞といたします。

令和六年十一月十六日

入間市立扇小学校 校長 村越 新

大好きな 大好きな この学校